資 料 1

公立幼児教育・保育施設再編に関する保護者アンケート分析

１．アンケート概要

○保護者アンケート

実施期間　9 月 3 日(木)～9 月 17 日(木)

回答数　保護者 220 人／269 人（回答率８１％）、こども 279 人／338 人（回答率８２％）

※同じ園に通うきょうだいの回答は１回。

※きょうだいが複数の公立園に通う保護者は複数回答。

２．アンケート分析

（１）公立保育施設再編の可否

→全体の 42%が「再編に賛成」反対は 18%。手厚い保育を条件とすれば、73%が賛成。

Q12. 園児数の減少により、園の再編も検討していかなければなりませんが、保育施設の再編についてどうお考えですか。

園名	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	どちらでもよい	わからない	総計
安来保育所	10	13	3	2	8	2	38
切川保育所	2	3	2	1	8	4	20
認定こども園荒島	3	5	2	2	5	2	19
認定こども園大塚	3	6	4		14	3	30
認定こども園飯梨	2	3	2	4	6	4	21
認定こども園広瀬	2	6	2	2	2	4	18
認定こども園比田	2		2	1	1	3	9
認定こども園安田	9	8	1		9	1	28
認定こども園赤屋		2	1		3	2	8
認定こども園母里	3	5	1	2	4	1	16
島田こども園	2	1	1	1		1	6
安来幼稚園		2	2	1		2	7
総計	**38**	**54**	**23**	**16**	**60**	**29**	**220**

	賛成	反対	どちらでもよい	わからない
計	92	39	60	29
割合	42%	18%	27%	13%

反対が 18%にとどまる一方、賛成派は 42%になり、「どちらでもよい」を含めると約 7 割の保護者が再編に対して否定しているわけではなく、一定の理解や許容を示している。

Q16. 施設の再編により「幼稚園教諭・保育士が集約され、手厚い保育ができる」場合、再編に賛成ですか。

賛成	137
条件付きで賛成（条件：　　）	25
反対	14
わからない	44

賛成条件　・職員の配置数など「手厚い保育」の担保　10 票
25 件　・保育士の処遇改善と労働環境の根本的対策　3 票
・通園の利便性・距離と「マンモス化」の回避　5 票
・安全管理・防犯・事故防止の徹底　3 票
・入所条件・年齢別体制・柔軟な保育サービスへの期待　4 票

さらに、Q16（手厚い保育ができる場合の再編）では意見が大きく変化する。「幼稚園教諭・保育士が集約され、手厚い保育ができる」という条件がついた場合、全体の賛成数は137人にまで急増し、条件付き（25人）を含めると162人（73%）大半が「保育の質が担保されるなら再編に賛成する」に傾く。（反対は6%）

保護者は「ただ園を減らす再編」には警戒しているものの、「保育の質が向上し、子どもにとって良い環境になるなら再編を望む」という期待を持っている。

（2）園児数への考え方

→「少人数・小規模園」へ危機感がある

保護者が再編を必要だと感じる背景には、現在の少人数環境に対する強い不安がある。

Q8. 現在通っている幼児教育・保育施設の人数が気になりますか。（1つに○）

① 少なくて不安（以下Q9へ）	89
② 気にならない・特になし（以下Q10へ）	131
合計	220

Q8で、現在の施設の人数が「気にならない」とする層（131人）がある一方で、約4割（89人）が「少なくて不安」と回答している。

少なくて不安と回答した人は、Q9（具体的な不安点）で、以下の項目が挙がっている。

Q9.「園児数が少ないと不安になる」と回答した方にお聞きします。具体的にどのような点が不安ですか。あてはまるものをすべてお選びください。（3つに○）

社会性・集団行動の経験不足	52
園の存続・運営状態など在園中に休園や再編の対象になってしまわないか	43
友達関係の固定化	36
小学校入学時の人数ギャップ	35
行事の活気・盛り上がり	33
保護者同士の人間関係	4
その他（具体的に：　　）	4

その他の意見
- 数年前より定員が減らされていることが問題だと思う
- 下の子の入園可否
- ある程度の人数がいて年長児のみの単独クラスが望ましい
- 定員数が減って入所しにくくなった。より良い保育や就学への繋がりを考えると、公立園所に入れたい保護者のニーズを受け止めきれていない。

「社会性・集団行動の経験不足」、「友達関係の固定化」など子どもの成長面に不安が寄せられる一方、「園の存続・運営状態など在園中に休園や再編の対象になってしまわないか」などの先行きが不透明な運営面に関する不安も寄せられている。

また、自由記述（Q20）においても、「同世代と関わることで本来備わる力が乏しくなる気がする」「クラスの人数が少なすぎて遊ぶ友達が少ない」「小規模園は友だち同士の関わ

りの経験不足や、大人ばかり頼ってしまう傾向を感じる」といった声が多数寄せられている。

保護者は、我が子が将来小学校や社会に出たときのギャップを見据えており、「ある程度まとまった人数の中で、多様な友達と切磋琢磨してほしい」という想い（＝再編による集約のメリット）を抱いていることが読み取れる。

(3)再編によってを期待すること

→再編に賛成、あるいは前向きな保護者たちは、単なる合理化ではなく、子どもたちの成長環境の質的向上を強く期待している。

Q13. Q12. で「賛成、どちらかといえば賛成」を選んだ方にお聞きします。再編する場合に期待することは何ですか。（３つまで○）

友達が増え、励まし合ったり、競ったりすることでよりよい成長が期待できる	69
幼児教育・保育環境（職員配置等）が整い、子どもたちの生活環境がよくなる	50
予算が集中することで、効率のよい幼児教育・保育施設の運営が期待できる	32
幼児教育・保育施設の施設整備が進み、快適な保育環境及び地震などの災害にも安心・安全が期待できる。	24
催事（イベントや行事）に多くの方が参加し、活気が出てくる	22
希望する幼児教育・保育施設に入所しやすくなる	10
その他	1

その他の意見
・先生の数も減っていると思うので、一人当たりの負担が減ると、園児への対応も今以上に良くなるのではと思う。

最多の 69 人が「友達が増え、励まし合ったり競ったりすることでよりよい成長が期待できる」を挙げており、次いで「幼児教育・保育環境（職員配置等）が整い、子どもたちの生活環境がよくなる」（50 人）が続いている。

Q14. 上記 Q12.で「賛成、どちらかといえば賛成」を選んだ方にお聞きします。公立の再編はどのような形の再編がよいですか。（２つに○）

子どもが成長できる環境を重視した再編	62
小学校への接続に配慮した再編	49
施設の安全性・立地を重視した再編	34
幼児教育・保育施設の規模を重視した再編	16
保護者の利便性や地域意向を踏まえた再編	7
その他	0

「子どもが成長できる環境を重視した再編」（62 人）や「小学校への接続に配慮した再編」（49 人）が上位を占めている。

自由記述でも、「子ども同士で遊び、ぶつかり合い人間関係を学んでほしい」「再編をす

ることで、今よりも一層保育が充実して子どもたちが社会性、体験、経験から多くを学べるようになるといいと思う」といった、前向きな賛同意見が述べられている。保護者自身が、少人数ならではの良さを感じつつも、集団としての適切な規模や刺激が子どもの成長に不可欠であると感じており、そのための再編であれば受け入れる用意があるという姿勢が伺える。

(4)再編反対の理由

→地域の衰退や、利便性の低下への不安をあげている。

Q15. 上記 Q12.で「反対、どちらかといえば反対」を選んだ方にお聞きします。なぜ、再編しない方がよいとお考えですか。(2つに○)

住み慣れた地域の幼児教育・保育施設がなくなる可能性がある。	21
園舎、先生、お友だちなど保育環境の変化による子どもたちへの影響がある。	16
幼児教育・保育施設が遠くなる可能性がある。	13
地域が広域となり、地域との密着性が薄れる。	11
園の規模(児童数)が大きくなり、丁寧な保育ができなくなる不安がある。	11
新しい環境になることに不安がある。	2
保護者会などの活動に不安がある。	0
その他	0

反対理由としては、「住み慣れた地域の幼児教育・保育施設がなくなる可能性がある。」「地域が広域となり、地域との密着性が薄れる。」など地域の衰退化への懸念が多く、「園舎、先生、お友だちなど保育環境の変化による子どもたちへの影響がある。」など子どもたちへ影響に対する不安、「幼児教育・保育施設が遠くなる可能性がある。」などの保護者の利便性低下などの声がある。

(5)通園について

→9割以上が車で通園している現状があり。2キロ～6キロ程度の通園可能という声が多い。

Q3.主な通園方法を教えてください

園名	自動車	自転車	徒歩	総計
安来保育所	37		1	38
切川保育所	19		1	20
認定こども園荒島	16		3	19
認定こども園大塚	29		1	30
認定こども園飯梨	21			21
認定こども園広瀬	16		2	18
認定こども園比田	8		1	9
認定こども園安田	26		2	28
認定こども園母里	14		2	16
認定こども園赤屋	8			8
島田こども園	6			6
安来幼稚園	4		3	7
総計	204	0	16	220

9割を超える、ほとんどの方が車で通園をされている。徒歩での通園は16人おり、自転車はなかった。

Q6. 施設の再編などで他園に通園する必要が生じた場合、ご自宅から送迎可能距離は、どのくらいですか。

１キロ未満	19
１キロ～２キロ未満	32
２キロ～４キロ未満	62
４キロ～６キロ未満	59
６キロ～10キロ未満	37
10キロ超	11
合計	220

2 キロから 6 キロがボリュームゾーンであり、一定数の距離でも送迎可能としているが、一方で約半数の 51 人が 2 キロ未満が送迎可能距離としており、自宅から近い距離の送迎を望まれている。

(6)1 クラスの人数

→多くの保護者は、１クラス（同年齢）の人数は５～20 人程度が適正だと考えている。

Q10. 一般的に子どもにとって「集団としての適切な規模」は、1 学年（同年齢）あたり何人程度が必要だと思いますか。（１つに○）

5人未満	3
5人～10人程度	92
11人～20人程度	94
21人以上	5
特にない・わからない	23
その他	3

ほとんどの保護者が、同学年の人数について 5 人以上必要だと感じている。現在は異年齢の合同クラスで人数を確保しているが、保護者は一定数の同学年の人数が必要だと考えている。

(7)再編時期

→6 割が令和 13 年までの移行を望んでいる。できるだけ早くという声も多数ある。

Q19. R9 年 3 月には施設の再編方針を決定する予定ですが、方針決定から施設の再編までの準備期間は、どの程度が望ましいと思いますか。（１つに○）

できるだけ早く再編を進めるのがよい【目安：R10・R11から再編】	50
ある程度時間をかけて再編を進めるのがよい【目安：R12・R13から再編】	82
十分な時間をかけて再編を進めるのがよい【目安：R14以降】	34
よくわからない・とくにない	54

全体としては段階的な移行を望む令和 13 年までが中心だが、「できるだけ早く」を望む層も 50 人となっている。

３．まとめ

●保護者アンケート要点まとめ

・公立園の再編について賛成は 42%、反対 18%。保護者の利便性や保育の質を担保にすれば 73%まで上昇する。（反対 6%）

・賛成が多数となる背景として、小規模園に対する子どもの成長面の不安と、先行き不透明の園運営が要因として挙げられる。保護者は、再編によって「子どもが伸びる環境」や「保育士の充実」「先の見通せる安定した園体制」を期待している。

・保護者のほとんどが同学年の人数として 5 人以上が必要と考えている。

・現在の通園方法は 9 割以上が車で通園されており、再編後も 2 キロ～6 キロの範囲であれば送迎可能であるとの声が多い。

・保護者が求めているのは「単なる統廃合」ではなく、こどもの成長のための再編を望んでいる。

・多くの保護者が再編時の子どもの環境変化に不安を抱えており、新しい園へスムーズに移行できるよう、市へサポートを望んでいる。

・再編時期としては、3 年程度の準備期間を望まれている。一方で子どもたちのためにできるだけ早く再編を望む声も多い。

●まとめ

保護者アンケートから見えてくるのは、保護者は現状維持に固執しているわけではなく、むしろ少人数による弊害や将来の小学校接続への不安を抱えており、「子どもの成長環境が良くなること」「小学校への接続を配慮した接続」を条件として、再編の必要性を前向きに受け止めている。

一方で、再編に際して子どもへの影響を懸念する声が多く、行政には、具体的な「保育の質の向上策」や「移行期の安心材料」等を配慮した再編計画の推進を期待している。